

様式 4

<p style="text-align: center;">令和 5 年度第 5 回 富士見市社会教育委員会議 議事録</p>						
日 時	令和 5 年 1 0 月 4 日 (水)		開会	午後 7 時 0 0 分		
			閉会	午後 9 時 0 0 分		
場 所	富士見市立中央図書館 2 階 視聴覚ホール					
出席者	委 員	本田議長	渡邊副議長	蘇武委員	内海委員	秋元委員
		○	○	○	○	○
		小栗委員	関野委員	戸田委員	八木橋委員	深瀬委員
		○	○	○	○	○
	事務局	生涯学習課 主査、主任				
公 開 ・ 非 公 開	公開 (傍聴者 0 人)					
議 題	<p>1 あいさつ</p> <p>2 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 3 4 期のテーマ決定に向けて <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各会議への参加報告 					

議 事 内 容

1 あいさつ

2 協議事項

・第34期のテーマ決定に向けて

【議 長】 配布資料の説明を。

【事務局】 定期刊行物に加えて、今日は「社会教育主事配置状況」と、「令和5年度入間地区社会教育の現状」を配布している。前回の会議で、他市と比べた時に富士見市はどのレベルにあるのか、というご質問があった。比較をしている訳ではないので明確にお示しできるものではないが、他市と比べられる資料として2つ用意した。「社会教育主事配置状況」は埼玉県が作成した資料で、人口や規模も違うので単純比較はできないが、県の職員に確認した所富士見市は比較的配置人数が多い方だとのことだった。また富士見市は6人配置されているが、うち半分が生涯学習課職員であり、これも珍しいとのことだった。社会教育主事資格の取得については、寛容な雰囲気があるのだと思う。「入間地区社会教育の現状」については、入間地区社会教育協議会が発行しているもの。入間管内の市町が原稿を出し合って作成しているもので、特にフォーマットが決まっているわけではないので単純比較はできないが、他の自治体がどんな取り組みを行っているのか見ることができると思う。ご確認いただきたい。また社会教育だよりについてもお持ちした。量が多いので印刷等していないが、随時ご確認いただければ。

【議 長】 第34期のテーマ決定に向けてということで、レジュメをご覧いただきたい。前回示された今後のスケジュールについて、再度掲げている。まず「①国や県の動向を確認する」。これは各自確認するということで、前回資料を配布している。「②富士見市について現状の確認」は、前回の会議で自己紹介も兼ねて各委員にお話しいただいた。レジュメの中で「前回会議で出たワード」としてまとめてもらっている。議事録も併せてご確認いただければ。次に「③理想と考える姿」について確認し、「④現状の確認」、「⑤理想と現状のギャップの確認」、「⑥ギャップを埋める方法の確認」という流れで進めていければと考えている。どういう姿の社会教育・生涯学習のあり方がいいのか。前回各委員からお話をいただいたが、もう少し具体的にしながら、理想と考える姿としてまとめていく。また現状に対する認識はあっているのか、思い込みはないか、事実を確認する必要がある。今日の最後に、宿題として「アクションプラン」を配布する。この「アクションプラン」について事務局より説明を。

【事務局】 第3次富士見市生涯学習推進基本計画に基づき、各課の生涯学習にかかわる取り組みをまとめたもの。事業の目的、また担当課の評価

を挙げている。市としてのアクションをチェックするシートで、富士見市の生涯学習に関する事業が挙げられているもの。なお直近の令和4年度アクションプランについては、評価の部分がまだ公表段階にないため、令和3年度のを配布する。

【議長】 今日配布するので、今なにができていて、できていないものはなにか、各自確認していただき、次回以降の会議で、富士見市のよいところ、課題点をまとめていければと考えている。理想と現状を掘り下げていき、その間の埋めるべきギャップを確認し、また埋める方法を考えていければ、テーマも見えてくるのではないかと思う。流れのイメージを共有した所で、今日の議題に入る。現状については読み込む必要があるので次回に扱うこととして、好きに語る事ができる理想の部分を取り上げていきたい。前回の会議で出たワードをレジュメに挙げているので、これらを踏まえて、みなさん自身が元々考えていることや、他の方の意見を聞いた上で「こうだったらいいな」ということを、自由に挙げていっていただきたい。付箋を今からお配りするので、短い言葉でどんどん書き出していただければ。その後、一人3分くらいでポイントを発表していただく。なお本日は各自の意見の共有までとし、まとめるのはまた次回扱っていききたい。

各自作業（10分間）

【議長】 では、模造紙を用意したので、こちらに貼り出しながら発表いただければ。

【委員】 まず1つ目、「ありがとう」が言える環境ができるとよいと考えている。ICTデバイスが使われるようになり、子どもたちは大人に対して「よろしくお願いします」や「教えてくれてありがとうございます」などと言う機会が減っているのではないかと考えている。人と人が係わって、大人に「ありがとうございます」、仲間に「一緒にやれて嬉しかったよ」など、コミュニケーションが取れる機会が、これからの時代減ってってしまうのではないか。インターネットで検索するとき「教えてください」「教えてくれてありがとう」と入力する人はいない。社会教育としてなにか働きかけができないか。2つ目が、人権について。ここ数年生成AIが話題になっており、AIとAIとが会話することも増えている。そこに人間が入って対談する様子を見ていると、人間はAIに対しても人権意識を感じている。ロボットに対しても「失礼ではないか」という感覚を持つ人が多いようだ。その状況を考えると、スマートフォンなどで出てくる情報に対しても、あたかも人間がしゃべっていることのように捉えてしまうのではないか。そうすると、リアルの人間に対する人権をもう一度考えてみる必要があるのではないだろうか。最後に、子どもの貧困を挙げる。子ども食堂はどこでも開催しているが、どちらかというと対処療法であり、社会的に見て子どもの貧困のどこに

課題があつて、どういった仕組みを変えていくと子どもが豊かになっていくのかという問題は、子どもに考えさせることではなく、大人がしっかりと考える必要がある。

【委員】 色々なアンケートを踏まえて子どもたちの意識を確認すると、どうしても地域とのつながりが薄く、そもそも関心も薄い。学校運営支援者協議会の中では、地域への関心が薄いのは悪いことなのか、という意見が出ている。子どもたちの視点はどんどん外に向けられていく。地域に目を向けるよりも、もっと魅力的な世界が外にあり、まずはそこに目を向けさせてあげてもよいのではないか、という意見があつた。そういう考え方もあるのかと思つたが、いざ地域の中で人間関係を築くぞという時に、子ども時代に大人との係わりの中で体験した記憶がよみがえって、自分自身が中心者となる時にどうしたらいいか、イメージできるようにしてほしい。そう考えた時に、まず、今活動されている内容が分からないという状況を変えたい。どういった方々が参加しているのか、どのような内容なのか、どのように市民に還元されているのか、見える化を工夫する手立てはないか。それぞれの方が興味をもって学ばれたことが、関心の薄い人も情報としてキャッチできる機会があつたらいいと考えている。それを踏まえて、社会教育に参加されている皆さんが、市内に留まらず、市外、県外の同志の方たちと交流ができると、よりその方の学びも深まるし、私たちが教えていただく時により内容が充実してくるのではないか。交流することで深めたことを、子どもたちに出前授業や地域での学習機会を通して還元していただくと、よりありがたいと考えている。

【委員】 私は小さなサークルがたくさんあるとよいと考えている。その小さなサークルが楽しく、そして主体的に活動しているとなおよい。楽しく主体的なサークルがたくさんある中で、誰もが参加しやすい場があると、異年齢間の交流ができる。そうすれば地域の人の顔が分かつて、お互いの違いを認め合えるようになるのではないか。お互いの特技も分かってくると思うので、その特技を生かしながらんにか活動できると楽しいのではないか。また色々なことをやっている内に、地域の課題に気付くことができ、地域のみんなで解決することができるのではないか。そして地域の良さをみんなで共有できれば、地域愛にあふれる地域になっていくのではないか。そう考えた時に、公民館が地域にあり、人と人とをつなげてくれるとよいのではないか。

【委員】 子ども同士をつなぐ場があるとよいと考えている。また親子で体験・参加できる機会が多いとよい。児童館で遊びの出前のようなものを実施している。また世代間をつなぐりによる伝承の実現もできるとよい。昔は親や祖父母と同居していたためつながっていたが、今は核家族化が進み、なかなかつながることが難しい。しかし町会などのつながりから、血はつながっていても他人から世代をこえて教えてもらえるので、私自身はとても助かっている。

また地域の人達が挨拶してくれると、とても嬉しい。無理のない距離感で寄り添えるとよいと思う。防災についても挙げたい。自助・共助・公助と言うが、まずは自助が大切。自助意識の高い市民が増えると地域の防災力の底上げにつながるのではないかと。全て「日常の底上げ」を目指したことであり、日常を底上げすることで一過性のものではないレベルアップを目指せるのではないかと。

【委員】

フラットな関係の社会が大事だと考える。フラットになれば大人がいきいきとして、子どもも真似したくなるのではないかと。そうすると学校も楽しくなる。生徒と先生も対等な方がよい。また、私は子どもたちには、まずは地域だと考えている。なぜ地域が大事かというと、地域には多様性がある。外に出てしまうと、その多様性が見えなくなってしまう。親御さんの中には私立の学校に進学させたいと考える方もいるが、私は公立の学校でオーセンティックなものに触れさせることが大切だと考えている。多様性について、実は在住外国人がいて、在住外国人の子どもの中には学校に行けていない子もいる。そういう方達にとっても暮らしやすい環境にしていくことは大事だと思う。また以前テレビ番組の中で「共事者」という考えが紹介されていた。「共事者」とは、当事者の周りにいて気にかけている人のこと。当事者にはなり切れていないことを負い目に感じている優しい人たち。「共事者」という考え方に、私のボランティア仲間はとても救われたと仰っていた。共事者意識の高い街にしていきたいと思う。共事者意識の高い街には良い意味でお節介な人もたくさんいると思う。また一人でも楽しい街、ということも大事だと思う。人間性を高めることができるので、自然と触れ合うことも大事だと考えている。イベントがたくさんあれば仲間もすぐできるので、そういう街になるとよい。最後に、フレンドなのにエネミーという「フレネミー」がいなくなるとよいと思う。フラットで誰もが対等な関係を築けるとよいのではないかと。

【委員】

私は宣伝方法について挙げたい。市の広報、特にホームページなどは検索などもできて便利だとは思いますが、果たしてどれだけの人が使っているのか。昨年度は市制施行50周年とホームページに大きく掲載されていたが、そこまでやらないと浸透しないのだろうなと感じている。誰でも分かる宣伝方法を考えていかないといけないのではないかと。また活動場所の確保について。他市と比べて公民館の数は決して少ない訳ではないが、昼間の時間帯は大抵サークル活動などで埋まってしまっている。会議や活動で集まりたいと思っても公民館は埋まってしまっていて借りられず、かといって町会の集会所は使いにくい。活動場所の確保が必要ではないかと感じている。活動の中心となる人の資質も大事。お節介な方もいれば口うるさい方もいる。頑張って最初の一步を踏み出しても、もう行きたくなってしまう。難しいことではあるが、とても大事なことだと思う。また地域活動に参加したいと思えるきっかけも重要だと考えている。

【委員】 周りの人を気にかける姿が重要だと思った。またボランティア活動に積極的に参加して貰えるとよい。特に高校生についてはぜひ色々な活動に取り組んでほしい。また高齢だからと言ってなにもしないのではなくて、高齢者もボランティア活動に積極的に参加していくことが必要ではないかと考える。新しい住民については、地域に入っていく姿勢をもっと持ってほしいと思っている。他の委員と重複するが、子どもから高齢者までの交流の場があるとよい。そのためにも、大きな交流センターがもっとあるとよい。多くの人が集まれる場、活動できる場が必要かと思う。また各町会でどのような活動をしているのか、町会長同士だけでなく、一般の住民も分かるよう、公民館だよりなどを通してPRできるとよいのではないかと。また災害時のことを考えると、身近な所に助けの力が必要となってくる。中学生と町会との交流会のような場を設けていけるとよいのではないかと。

【委員】 資料館の更なる活用ができるとういのではないかと。指定文化財や重要文化財であるということがあまり知られていない。もっと活用する方法があるのではないかと。学校と資料館との連携もできるとよい。体験授業などで生徒・児童に訪れてもらい、勾玉づくりなどを体験してもらっている。子どもたちの表情や先生方の反応を見ていると、やはり学校にいる時とは違うのかなと感じる。更なる連携の必要性を感じている。また活動されている方は高齢の方が多い。しかし活動に参加されているだけあって様々なことに関心を持っている。「あの人こんなこと知っているのか」と驚かされることが多い。そう考えると高齢者の更なる活躍が期待できるのではないかと。そして資料館からの情報発信も必要。水子貝塚はまだほんの数パーセントしか発掘されておらず、まだ可能性が大いにある。価値があまり知られていないので、更なる情報発信が必要だと考える。最新の技術、例えばバーチャル映像などを活用した紹介ができるとよい。また市内の歴史を掘り起こすこともできるとよい。古文書などを読んでいるが、大いに可能性を感じている。

【議長】 私は最終的な状態から考えて、全市民が富士見市が好き、という状態を目指したい。使い古されている言葉であるかもしれないが、誰一人取り残さないということも、大きなアウトプットとしてはあるとよいと考える。そのためには、みんなが自主的、能動的に地域のために何かしているとよい。教育という観点から考えると、教える、教えられるという関係ではなく、共に学び合う関係が築けるとよい。また状態として、多世代、多様な人が有機的に交わって化学反応が起き、良い作用を及ぼすことができているとよいのではないかと。また運営主体を考えた時に、行政と民間、または民間同士、各団体で連携が取れているとよいと思う。持続可能ということも大事だと考える。社会教育、生涯学習の入り口が多くハードルが低いという状態になるとよい。また富士見市の社会教育の考えや取組が分かりやすく発信されている状態になるとよい。

【委員】 まずどのような活動があるか容易に知ることができるというのが大事かと考えている。参加したいと思えるものがすぐ見つかる状態であるとよい。また選択肢の多さが備わっているとよい。活動に係わっている中で他の人とつながりやすいという状態であってほしいし、係わった活動に関して、一度係わったらもう抜けられない、というのではなく、出入りが容易な状態であってほしいと思う。また活動している当人が楽しいのはもちろんだと思うが、富士見市の社会教育としては、自己満足で終わらずに周囲の方や地域に還元されるものであってほしいと思う。また活動に係わっていく中で、自分が主体的に企てやすいという状態があるとよい。いざ活動を始めてみると、分からないことや必要なものがあると思う。リソースを市の中で分かち合いやすいというのも大事なことかと思う。活動の場所をきちんと得られることや、運営のノウハウを得られることができると、市全体の活動として広げやすいのではないかと。

【議長】 各委員から様々な意見が出た。なにか思ったことや質問、こうやってまとめるとよいのではというアイデアなど、なにかあれば伺いたい。

【委員】 災害時のことを考えて中学生と町会との交流を、という意見があった。中学生にフォーカスした理由を伺いたい。

【委員】 新聞を読んでいて、中学生が高齢者のお宅のゴミ出しを手伝っているという記事を見つけた。そういうことも可能なのかと思った。いつ災害が起きるか分からないが、大人は仕事に出ていて地域にいない。高齢者と一番近いのは小学生や中学生。もしかしたら力が必要になる時があるかもしれない。あまり地域に興味を持っていない子どもたちも多いと思う。何かしらの形でつながりをもっておけたらよいのではないかと考えている。

【議長】 子どもにフォーカスされた方はどういった理由からか伺いたい。社会教育につながるなにかストーリーがあるのか。

【委員】 娘が生まれてから、自分が住んでいる地域のことを娘にちゃんと伝えられるようにしなければいけないと思った。私の地元は富士見市ではないが、娘にとっては富士見市が地元。地元のことをきちんと伝えてあげようと思い、子どもと一緒に地域のことを勉強している。

【委員】 主体的に、という話があったが、なぜ大人は主体的に動かないのか考えると、教育にその一端があったのではないかと。今まで受けてきた教育や、家庭での育て方が、主体性を育むものではなかったのではないかと。心にエンジンがかからないと主体性は出ない。心のエンジンを手に入れていない大人が多い。学校で子どもが主体的に学んでいくということ、子どもたちに主体性を持たせるということは今までやっていなかった。そこをみんなでなんとかしていこう、という考え方が起こりつつある。

【委員】 子どもはいつか大人になる。地域を作っていく人になる。子どもたちに向けて、こんな地域になってほしいという願いが発信されていくとよいのではないかと。子どもたちの、地域の人達に色々な

ことをしてもらって楽しかった、という思いはとても大事だと思う。またうちの息子は一度外に出たが、子育てするなら、と富士見市に戻ってきた。あの地域で育ってよかったという思いは、外に出てもなくならないし、見えていなかった良さを改めて感じると思う。地域愛を充分に感じてほしい。地域の人、地域の子どもに対する愛は無償のもの。地域愛は絶対に必要なものだと思う。そのためには地域愛が子どもに注がれること、そして地域愛を注ぐことができる大人が増えることが大事。すべての大人がそうしなければいけないという訳では決してなくて、色々な大人がゆるやかにつながり、その真ん中で子どもが安心して暮らせる環境。そういう環境で育った子どもが、安心して暮らしていける大人になるのではないか。

【議長】 子どもが大人になっていく、という観点。それから子どもを核にするとみんながつながりやすい、という観点でのお話だった。

【委員】 まとめ方について、テキストマイニングなどの手法を用いてまとめていただくと、視覚的にも分かりやすいのではないか。地域とは、最終的にチームワークなのだと思う。リーダーがいてフォロワーがいて、という構造。公民館等での活動がチームワークの中でリーダーシップを発揮する場となると、どういう性格のリーダーが求められているのか、興味があるなと感じた。私が勤務している大学では、今年から全国で初めてチームワークとリーダーシップという科目を設けており、高学年の学生が下の学年の学生に向けて授業をする。様子を見ていておもしろいと思ったのは、自分にはリーダーシップがある、と思って前に出て話している学生は、自分の価値観でしか話していない。自分の強みや弱みが分かっておらず、エニアグラムという心理検査をやらせてみると「意外と自分はこんな弱みがあるのか」となる。議長からもお話があったが、富士見市の現状、弱みと強みをしっかりと捉えて、その中で必要なことを確認する必要があるのだと思う。

【委員】 まとめ方としてテキストマイニングという手法が挙げられた。似たようなワードでグループを作って、というような認識でよいか。

【委員】 その通り。

【議長】 こちらで大まかにまとめて、また次回の会議で検討材料としてお示しできればと考えている。

【委員】 歴史について委員よりお話があったが、私もとても大切なことだと考えている。私がオーセンティック、本物、という話をさせていただいたが、本物とは何かというと、なぜ自分はここにいるのか、ということを考える時にとっても重要。自然や人間社会も大切。先日、ふじみ野市の箒の会の活動のお手伝いをしてきた。参加者が多く、みんな和気あいあいと楽しそうに作業していた。箒は昔の人が手作りしていたという歴史があって、それを体験することはとても大切。リアル、本物の中に自分を位置付けるということは大切なことだと思う。

【議長】 各委員から様々な意見をいただいた。理想の姿をまとめていき、ど

れを取り上げるか候補を挙げていきたいと思う。また宿題として、アクションプランを読み込んでいただき、強みと弱みをお配りした「現状把握シート」に書き出してきていただきたい。率直に思ったことで構わない。また「分野」と書いているが、ラベル、カテゴリーのようなものが付けられれば、併せてお願いしたい。厳密でなくて構わない。ここに書き出していただいたものをまた集約していき、検討材料としていく。

【委員】 電子データでいただくことは可能か。

【事務局】 希望される方には後日メールでお送りする。

【委員】 強み、弱みを書くとなると、基準が必要。自分が思う基準でよいのか。

【議長】 主観で構わない。

【委員】 自分としては富士見市の取組が素晴らしいと思っても、他の市と比べるとそうでもなかった、ということもあり得る。

【議長】 他との比較も必要かもしれないが、まずは絶対基準として、自分の中での良い、悪い、の判断で構わない。

【委員】 分野の設定は、自分で考えていいのか。

【議長】 ご自身なりの分類で構わない。

【事務局】 今回お配りしたアクションプランについて、先程簡単にご説明したが、第3次富士見市生涯学習推進基本計画の中に記載があるので、必要があればご確認いただきたい。

【議長】 宿題については、11月17日（金）までに事務局までご提出いただきたい。

3 その他

・各会議への参加報告

【委員】 入間地区社会教育協議会主催で、10月18日に研修会を開催する。会場での打合せにも参加してきた。ご都合のつく方にはご参加いただければ。